第 169 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録（案）
開催日時：平成 15 年 10 月 1 日、13：30－17：00
場所：電気学会第 1,2 会議室
（〒102-0076　東京都 千代田区 五番町 6-2 HOMAT HORIZON ビル 8F）

出席者(敬称略)
委員長：岡本(電中研)
委員：滝川（住友電工碕嶋代理)、武内（日立)、岡本（富士電機アドバンステクノロジー)、小山（東芝)、後藤(コンサルタント)、山野（千葉大)、山之内（日新電機)、高橋(フジクラ)、伊藤（日本がいし)、穂積（長尾委員（豊橋技科大）代理）
幹事：宮下（三菱電線)、内田（中部電力）
幹事補佐：岡下（昭和電線)、西川(芝浦工大)

資料：
番号なし：168 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録（案）
169-1　技術委員会名簿
169-2　第 57 回基礎・材料・共通部門　研究調査運営委員会議事録（案）
169-3　環境対応電気電子材料・システム調査専門委員会議事録（第 5～７回）(案)
169-4　ポリマーがいし材料表面の放電特性評価と劣化現象調査専門委員会第 6 回議事録(案)
169-5-1~3　第 6~8 回プリント配線板の絶縁劣化および耐サージ性調査専門委員会議事録
169-6-1,2 第 3，4 回ケーブル・電気機器のオンライン計測による絶縁劣化診断調査専門委員会議事録
169-7　有機薄膜・分子超薄膜及び有機・無機複合膜の機能化調査専門委員会解散報告書
169-8　情報通信のための誘電絶縁材料調査専門委員会設置趣意書(案)
169-9　調査専門委員会フォローシート(2003.10.1)
169-10 平成 15 年度誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定（4 次案）
169-11　平成 16 年度誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定（4 次案）
169-12　1 月合同研究会について
169-13　「電気・電子絶縁技術の到達した技術と今後の展望」講習会プログラム
169-14　平成 16 年電気学会全国大会シンポジウム(案)提案（環境対応電気電子材料システム）
169-15　平成 16 年電気学会全国大会シンポジウム(案)提案（新機能性ナノ誘電体の開発現状と応用展開）
169-16　第 35 回電気電子絶縁材料システムシンポジウム実行計画・予算(案)
169-17　2005 ISEIM Call for papers(案)

169-18　2005 年 ISEIM 開催提案書（第二次案）
169-19　第 3 回有機エレクトロニクスシンポジウム協賛について
169-20　国際会議協賛の依頼について（2004 年有機・無機電子材料とナノテクノロジーに関する国際シンポジウム）
169-21　2004 年度家田賞、矢作賞投票結果
169-22　誘電・絶縁材料技術委員会ホームページ
169-23　第 1～５回高電界電気絶縁における電荷挙動と界面調査専門委員会
169-24　機器診断の経済性評価に関する委員会設立の趣意説明書

議事：
１．前回議事録について
前回議事録（案）を西川幹事補が読み上げ、一部訂正の上、承認された。

２．資料 169‐1
技術委員会委員名簿である。

３．資料 169‐2
岡本委員長より基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録について説明がなされた。
・柔構造を持つ有機電気・電子材料のナノテクノロジー調査専門委員会の新設が承認された。
・ISEIM2005 の開催は、次回の調査運営委員会で承認後、役員会で承認される予定。
・EINA マガジン委員会からの A 部門活動資金申請がなされた。
・電気学会上級会員制度について紹介があった。技術委員会委員の多くの方は資格がある可能性が高い。自薦他薦でウェブよりご応募いただきたい。

４．資料 169‐3
第 5~7 回環境対応電気電子材料・システム調査専門委員会議事録である。武内委員より報告がなされた。

５．資料 169‐4
第 6 回ポリマーがいし材料表面の放電特性評価と劣化現象調査専門委員会議事録である。後藤委員より報告がなされた。

６．資料 169‐5‐1,2,3
第 6~8 回プリント配線板の絶縁劣化および耐サージ性調査専門委員会議事録である。山野委員より、報告がなされた。共同実験の実施、およびイオンマイグレーションに関する単

行本刊行予定などについて報告があった。
７．資料 169‐6‐1,2
第 3、4 回ケーブル・電気機器のオンライン計測による絶縁劣化診断調査専門委員会議事録である。内田幹事より報告があった。

８．資料 169-7
有機薄膜・分子超薄膜及び有機・無機複合膜の機能化調査専門委員会解散報告書である。岡下幹事補佐（金子委員長代理）が読み上げ、承認された。ただし、4 項．今後の問題点の表現の訂正が指摘された。金子委員長に連絡の上、訂正していただき、12 月 3 日運営委員会に提出することとした。

９．資料 169－8
情報通信のための誘電絶縁材料調査専門委員会設置趣意書である。委員長が読み上げ、一部字句の訂正（誘電絶縁→誘電・絶縁など）の上、承認された。

１０．資料 169－9
調査専門委員会フォローシートである。宮下幹事より説明がなされた。

１１．資料 169-10
H15 年度誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定案である。宮下幹事より説明があった。
・12 月開催予定であったポリマーがいし・界面絶縁関連の研究会を延期する。
・次回技術委員会および見学会（予算申請済み）について、委員長より次世代工学センター（日大小山キャンパス)、都内研究所（東大生産研など）などの案が示され、幹事団に一任された。

１２．資料 169-11
H16 年度誘電・絶縁材料研究会、技術委員会、その他行事予定案である。宮下幹事より説明がなされた。
・ナノコンポジット関連の研究会について 9 月の連合研究会での開催を田中委員長に相談する。
・次回 A 部門大会（H16 年 8 月 30,31 日仙台予定）のセッション依頼にも対応する必要がある。研究会の代わりに A 部門大会へのセッションを受けてはどうか。プリント配線技術などが候補として挙げられた。

１３．資料 169-24

穂積氏（豊橋技科大）より機器診断の経済性評価に関する調査専門委員会設立に関する趣意説明がなされた。以下の議論があった。
・絶縁材料からシステムに分野を広げないと使えない可能性がないか？
→本委員会では抽象化された方法論を議論する。その方法論は対象によって異なるが、当面は対象を絶縁に絞る。
・Delft 工科大では、故障データベースのフォーマット作成を行っている。これにより将来的にはデータベース共有の可能性がある。
・B 部門との調整が必要か。→本分野では A 部門が先行しているが、設置趣意書は他部門の動向を踏まえたものとする。
　審議の結果、調査専門委員会の方向性は承認された。11 月中旬までに本趣意書をベースに設置趣意書を作成していただき、メール委員会にて賛否を問い、12 月の役員会に申請することとした。

１４．資料 169-23
第 1~5 回高電界電気絶縁における電荷挙動と界面調査専門委員会議事録である。穂積氏（長尾委員代理）より報告がなされた。

１５．資料 169-12
岡下幹事補より、1 月合同研究会（電線・ケーブル技術委員会と合同）について報告された。

１６．資料 169-13
「電気・電子絶縁技術の到達した技術と今後の展望」講習会プログラム（東京支部、電気電子絶縁技術将来展望調査専門委員会共催）について、後藤委員より説明がなされた。

１７．資料 169-14
武内幹事より説明があった。H16 年全国大会シンポジウム提案「環境対応電気電子材料・システム」である。来年 2 月委員会解散後も、委員の間から具体的な研究テーマについて、来年 4 月の新調査専門委員会設置を目標に検討したいとの要望がある。

１８．資料 169-15
後藤委員より説明があった。ナノコンポジット委員会からの H16 年全国大会シンポジウム提案「新機能性ナノ誘電体の開発現状と応用展開」である。

１９．資料 169-16
第 35 回シンポジウム実行計画・予算(案)について、宮下幹事より説明がなされ、以下の議論があった。

一般募集テーマについて
・参加者を多く呼べるようなテーマ設定をすべきである。
・運営にあたっては、発表件数を稼ぐ必要はなく 40 件程度に絞ってよいのではないか。
・セッションの分野を統括するような話（1 時間程度）を冒頭に入れたほうがよい。実装学会の例では、依頼講演を各セッションに入れている。
・参加費無料の研究会との差別化をはかる必要がある。
・１セッションごとに企画担当をお願いする。
招待講演者について
・日本人でも良いのではないか？
・他分野の話。現在、好調な産業分野。
・電子絶縁、システム絶縁、高密度 3 次元実装関連。自動車関連エレクトロニクス。
・ナノコンポジット関連。絶縁にこだわらない。ナノマテリアルの創製。
・SiC、燃料電池、異分野など、生体の電気、有機 EL 関連。
・外国人にこだわらず、レビュー講演、役人（政策、環境関連）
・外国人、日本人にかかわらず異分野。

２０．資料 169‐17 および 18
岡本委員長より ISEIM 開催提案書（第 2 次案）に関連する報告がなされた。Vice Chairman in charge of program を宮下幹事とするなどの変更を加えた。

２１．資料 169-19
小野田氏からの第 3 回有機エレクトロニクスシンポジウムへの協賛依頼について、岡本委員長より説明があり、承認された。

２２．資料 169-20
金子委員からの 2004 年有機・無機電子材料とナノテクノロジーに関する国際シンポジウムへの協賛依頼について、岡本委員長より説明があり、承認された。

２３．資料 169-21
内田幹事（表彰委員会委員長）より、2004 年度家田賞および矢作賞について投票結果について報告がなされた。以下の議論があった。
・矢作賞は推薦が少なかったため、過去 2 年間の被推薦者も候補に入れた。
・他の賞との関連も含めて表彰の仕方を長期的に考えるべき、複数名の受賞を可能としてはどうか、などの意見がある。その場合には表彰規程の再検討が必要となる。
・過去 3 年間の推薦を有効とする条項を規定に追加してはどうか。
→次回に幹事団より規定の改訂案を提出する。

・家田賞と犬石賞の位置づけは、同じものと見るのか。→規定を整備する必要あり。
今回は、従来の規程どおりに手続きを進めることとし、2004 年度家田賞に大木義路氏（早大)、矢作賞に宮下隆雄氏（元日立、元静岡大）とすることが承認された。その他、今後のスケジュールとして、2005 年の ISEIM では、外国人も含めて、犬石賞候補者も決める必要がある。

２４．若手セミナー開催について
岡本委員長より各調査専門委員会への同セミナーの企画依頼があった。技術委員会の持つトピックスとして重要かつ最新のものを提供いただきたいとの依頼がなされた。これに対して、以下の意見が出された。
・調査専門委員会のテーマをトピックスとするには分野が狭すぎる。
・B 部門のポリマーがいし関連研究分野では、大学教員が学生を対象に基礎関連のセミナーを行っている。
・セミナー参加対象を大学研究室の学生として、実学とのギャップを埋めるような内容としてはどうか。
・講師の依頼に対しては調査専門委員会が対応可能であるが、企画は幹事団で行うべきである。
以上の意見を踏まえ、幹事団で検討することとした。

２５．次回委員会について
未定。

以上。